

次期SIP課題候補	課題候補のコンセプト	検討タスクフォースメンバー					FS予算配分
		プログラムディレクター（PD）候補 （肩書きは代表的なものを抜粋）	サブ課題等の有識者 （サブPD候補等）	内閣府課題担当	関係省庁	研究推進法人	
01 豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築	食料安全保障やカーボンニュートラル、高齢化社会への対応に向けて、食料の調達、生産、加工・流通、消費の各段階を通じて、豊かさを確保しつつ、生産性向上と環境負荷低減を同時に実現するフードチェーンを構築する。	松本 英三 株式会社 J-オイルミルズ 取締役、常務執行役員	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討	バイオグループ	文部科学省、厚生労働省、農林水産省、林野庁、経済産業省、国土交通省	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター	2.0億円
02 統合型ヘルスケアシステムの構築	患者や消費者のニーズに対し、医療・ヘルスケア等の限られたリソースを、デジタル化や自動化技術で最大限有効かつ迅速にマッチングするシステムを構築する。	永井 良三 自治医科大学 学長	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 他の応募者と相談	人・くらしグループ	デジタル庁、厚生労働省、経済産業省	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所	2.0億円
03 包摂的コミュニティプラットフォームの構築	性別、年齢、障がいなどに関わらず、多様な人々が社会的にも精神的にも豊かで暮らしやすいコミュニティを実現するため、プライバシーを完全に保護しつつ、社会活動への主体的参加を促し、必要なサポートが得られる仕組みを構築する。	久野 譜也 筑波大学大学院 人間総合科学 学術院 教授	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 厚労省などの関係省庁の意見を踏まえ検討	人・くらしグループ	厚生労働省、経済産業省、国土交通省	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所	1.75億円
04 ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築	ポストコロナ社会に向けて、オンラインでも対面と変わらない円滑なコミュニケーションができ、地方に住んでいても大都市と変わらない教育や仕事の機会が提供され、さらに、多様な学び方、働き方が可能な社会を実現するためのプラットフォームを構築する。	西村 訓弘 三重大学大学院 地域イノベーション 学術院 教授・特命副学長	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 初等中等教育に関する有識者	教育・人材グループ	デジタル庁、文部科学省、厚生労働省、経済産業省	国立研究開発法人 科学技術振興機構	1.75億円
05 海洋安全保障プラットフォームの構築	世界有数の海洋国家である我が国にとって安全保障上重要な海洋の保全や利活用を進めるため、海洋の各種データを収集し、資源・エネルギーの確保、気候変動への対応などを推進するプラットフォームを構築する。	石井 正一 日本CCS調査株式会社 顧問	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討	SIP総括グループ	内閣府（総合海洋政策推進事務局）、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	2.0億円
06 スマートエネルギーマネジメントシステムの構築	地域におけるエネルギーの生産及び利用に係る技術の更なる高度化に加え、電力利用だけでなく熱利用についても考慮する需給調整に向けたエネルギーマネジメントシステムの構築、エネルギーマネジメントシステムを支える分散型電源関連、エネルギーキャリア関連技術の確立を目指す。	浅野 浩志 一般財団法人電力中央研究所 研究アドバイザー	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討	統合戦略グループ	デジタル庁、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省	国立研究開発法人 科学技術振興機構	2.0億円
07 サーキュラーエコミーシステムの構築	大量に使用・廃棄されるプラスチック等素材の資源循環を加速するため、原料の調達から、設計・製造段階、販売・消費、分別・回収、リサイクルの段階までのデータを統合し、サプライチェーン全体として産業競争力の向上や環境負荷を最小化するサーキュラーエコミーシステムの構築を目指し技術開発を行うとともに、消費者の行動変容を促す環境整備も検討する。その際、脱炭素社会の実現や環境配慮が付加価値になる情報開示に関する国際的なルール形成（TCFD、TNFD等）への対応についても併せて検討を行う。	伊藤 耕三 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討	統合戦略グループ	デジタル庁、文部科学省、経済産業省、環境省	独立行政法人 環境再生保全機構	2.0億円

次期SIPの各課題候補に係る検討タスクフォース（検討TF）構成案

次期SIP課題候補	課題候補のコンセプト	検討タスクフォースメンバー					FS予算配分
		プログラムディレクター（PD）候補 （肩書きは代表的なものを抜粋）	サブ課題等の有識者 （サブPD候補等）	内閣府課題担当	関係省庁	研究推進法人	
08 スマート防災ネットワークの構築	気候変動等に伴い災害が頻発・激甚化する中で、平時から災害に備える総合的防災対策を強化するとともに、災害時対応として、災害・被災情報をきめ細かく予測・収集・共有し、個人に応じた防災・避難支援、自治体による迅速な救助・物資提供、民間企業と連携した応急対応などを行うネットワークを構築する。	楠 浩一 東京大学 地震研究所 災害科学系研究部門教授	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討	インフラ・防災グループ	内閣府（防災担当、準天頂衛星システム戦略室）、デジタル庁、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省	国立研究開発法人防災科学技術研究所	2.0億円
09 スマートインフラマネジメントシステムの構築	インフラ・建築物の老朽化が進む中で、デジタルデータにより設計から施工、点検、補修まで一体的な管理を行い、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを推進するシステムを構築する。	久田 真 東北大学大学院 工学研究科 副研究科長、インフラ・マネジメント研究センター センター長	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 第1期PDをアドバイザーとして採用	インフラ・防災グループ	国土交通省、農林水産省、環境省	国立研究開発法人土木研究所	2.0億円
10 スマートモビリティプラットフォームの構築	移動する人・モノの視点から、移動手段（小型モビリティ、自動運転、MaaS、ドローン等）、交通環境のハード、ソフトをダイナミックに一体化し、安全で環境に優しくシームレスな移動を実現するプラットフォームを構築する。	石田 東生 筑波大学 名誉教授	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 産業界の有識者	社会システム基盤グループ	警察庁、デジタル庁、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	2.0億円
11 人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	人の生活空間でのロボティクスの利用拡大が見込まれる中で、ドアを開ける、モノを運ぶ、階段を登るなどのタスクに応じて、マニピュレータなどの必要な機能を提供するためのハード・ソフトのプラットフォームを構築するとともに、人へのリスク評価手法などについて検討を行う。	山海 嘉之 CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長/CEO	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討	SIP総括グループ	経済産業省、厚生労働省、国土交通省	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	1.75億円
12 バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	バーチャルエコノミーが拡大する中で、バーチャル空間での個人認証・プライバシー等のルール、バーチャル空間とつなぐ技術として5感、BMI（Brain Machine Interface）の標準化、バーチャル社会の心身への影響、社会システム設計等が求められている。GAFAMやITベンチャー等の取組が急速な中、社会制度の設計、技術標準化、セキュリティ等に官民連携で取り組む。	持丸 正明 国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 研究センター長	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 産業界の有識者	SIP総括グループ	経済産業省	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	1.75億円
13 先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進	量子コンピュータ、量子センシング、量子セキュリティ・ネットワークと古典コンピュータ等の従来技術システムが連携・一体化したサービス実現は、我が国の産業競争力の強化・社会課題解決等に貢献することが期待されている。また、量子コンピュータの進展による現代暗号技術の危殆化に対応するため、量子暗号技術の社会実装や、量子コンピュータ・センサを接続可能とする量子ネットワークの実現が期待されている。令和4年4月目途に策定される新たな戦略を踏まえ、取り組むべき課題を具体化する。	寒川 哲臣 日本電信電話株式会社 先端技術総合研究所 所長	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 各分野に係る有識者	量子・マテリアルグループ	総務省、文部科学省、経済産業省	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	2.0億円
14 AI・データの安全・安心な活用のための基盤技術・ルールの整備	AIの利活用の拡大に当たっては、データの品質と計算能力を向上させるとともに、プライバシー、セキュリティ、倫理などが課題として挙げられる。データの安全・安心な流通を確保しつつ、様々なステークホルダーのニーズに柔軟に対応できるデータ連携基盤を構築することが期待されている。AI戦略の見直しを踏まえ、取り組むべき課題を具体化する。	宮本 恭幸 東京工業大学工学院 電気電子系 教授	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 秘密計算、AIセキュリティなど情報分野の有識者	社会システム基盤グループ	内閣官房、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	2.0億円
15 マテリアルプロセスイノベーション基盤技術の整備	マテリアル設計、プロセス設計上のデータ、マテリアルズ・インテグレーション技術やプロセスインフォマティクス技術を適用することで、ニーズに応じた材料を迅速に開発できるイノベーション基盤技術を整備する。	木場 祥介 ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター 株式会社 代表取締役パートナー	女性、若手など多様な視点からのSPD候補等を検討 産業界やアカデミアのマテリアルの専門家	量子・マテリアルグループ	文部科学省、農林水産省、経済産業省	国立研究開発法人物質・材料研究機構	2.0億円